

東京都のコロナ警戒度、最高レベルに 感染急拡大踏まえ

2022/7/14 日本経済新聞



東京都は14日、新型コロナウイルスの感染拡大の深刻さを示す都独自の警戒度を最高レベルに引き上げた。新規感染が前週比の2倍を超えるペースで拡大している点などを考慮した。感染状況を検証する同日のモニタリング会議では専門家が「これまでに経験したことのない爆発的な感染状況になる」と警鐘を鳴らした。

4段階で感染状況を判断する警戒度が最高レベルとなるのは4月下旬以来。前週までは「感染が拡大している」と上から2番目だったが、足元の状況を踏まえ「大規模な感染拡大が継続している」と警戒を強めた。

13日までの7日間平均でみると、新規感染者数はおよそ1万110人と前週の2.3倍に増えた。都の発熱相談センターへの相談件数も前週比2.5倍の約5410件に急増し、ピークアウトの兆しはみえていない。

医療提供体制への警戒度も1段階引き上げ、上から2番目の「通常の医療を制限し、体制強化が必要」とした。13日時点で重症患者は13人ととどまるが、入院患者数が2239人と前の週から7割強増えている点を考慮した。

新規感染者の8割近くを40代以下が占めるのに対し、入院患者は4割超が70代以上と高齢者の症状悪化が目立つ。都は医療機関に対し、コロナ専用病床を最大想定7000床に増やすよう要請している。

流行の主体はオミクロン型から派生した「BA.5」に急速に置き換わっている。都健康安全研究センターの調査によると、BA.5の割合は4日までの週で56.4%となり、前の週に比べて20ポイント以上高まった。これまでの主流だった「BA.2」（38.3%）を逆転した。

会議終了後、小池百合子知事は記者団に対し「20～30代の半数が3回目接種を受けていない。ぜひすみやかに接種してほしい」と述べた。都は15日に新型コロナ対策本部会議を開き、夏場の感染防止対策を協議する予定だ。